

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名:余市町地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名:地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
余市町地域公共交通活性化協議会	<p>運行系統名:余市循環線 運行区間: ①余市循環線(登校便):余市駅前→余市協会病院→余市紅志高校 ②余市循環線(通常便):余市駅前→余市協会病院→余市駅前 ③余市循環線(下校便):余市紅志高校→余市協会病院→余市駅前 運行回数:合計1,082回(①300.5回、②361回、③420.5回) 運賃:240円(法定協議運賃) * 小児運賃有り</p> <p>【車両減価償却費等国庫補助】</p>	<p>前回は目標値としていた輸送人数、収益率を下回る結果となつた。</p> <p>前回結果を踏まえ、今年度も引き続き周知の徹底を図るために、運行ダイヤチラシを事業年度中に全戸配布を2回行った。加えて、協議会へ年間実績の報告を行い、意見を求めるとともに、余市紅志高校からダイヤの利便性等に関するヒアリングを行うなど、利用率向上に努めた。</p>	<p>A:事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> <p>B</p>	<p>①余市循環線の年間輸送人数は目標値34,700人に対して22,730人であった。 ②余市循環線の収益率55%に対して38.8%であった。 ③余市循環線の行政負担額は目標値3,900千円に対して見込み値4,377千円 ①に関しては、目標設定時に、運行路線を余市協会病院線から余市循環線に合理的な短縮を図ったことによる停留所数減による減少率を加味していなかったことから、過大な目標設定となっていたことに起因するものと考える。 ②に関しては、目標値は達成していないものの、収入額は前年度対比113.5%となっており、運賃改定による運賃収入が増加したことによる。 ③に関しては、前年度よりも実際の收支不足に対する補助対象経費の割合が下がったことにより自治体負担が増加となった。 ④余市循環線のバス事業社負担額 0千円に対して見込み値0千円となり、目標値は達成する見込みである。 車両減価償却費等国庫補助の目標・効果達成状況も①～③に同じ。</p>	<p>目標として設定しているバス事業者負担額については達成しているものの、輸送人数や収益率の目標を達成するためには、さらなる利用促進を図る必要がある。</p> <p>今後はバス待ち空間など利用環境の向上や需要に則した運行ダイヤの設定、新たなバスルートの検討を行い、持続可能な公共交通としての確立を目指す。</p>